

◆アフターサービス

アフターサービスを依頼する前に、10ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」を見てもう一度確認してください。確認の上、それでも不具合な場合あるいはご不明の場合は、ご自分

で修理なさらず、お買い求めになった販売店又は当社「お客様係」☎0120-75-5000までご相談ください。

SOTO MUKAストーブ SOD-371 保証書

この製品は万全を期していますが正しい使用にもかかわらず万一故障した場合は本保証書にお買上げ年月日、販売店名、ご芳名、ご住所、お電話番号および症状をお書き添えの上、お買上げの販売店に修理をご依頼ください。

製品名・型式	SOTO MUKAストーブ SOD-371	ご芳名
保証期間	お買上げ日より1年間	ご住所
お買上げ日	平成 年 月 日	お電話 ()

取扱販売店・住所・電話番号	症状
---------------	----

SOTO Sparked by nature 新富士バーナー株式会社

保証規定

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

- 保証期間内に、取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意に従った正常なる使用状態において、万一故障した場合には、無料で修理いたします。
- 修理依頼時には、つぎの事項にご注意ください。
 - 必ず商品と本保証書をご提示ください。
 - 保証期間を過ぎた修理依頼も商品と本保証書をご提示ください。
 - 商品と本保証書の提示のない場合は、修理をお断りすることがあります。
 - ご贈答品等で本保証書にお買上げ販売店に修理をご依頼できない場合には、当社「お客様係」☎0120-75-5000までご連絡ください。
- 保証期間内でも、つぎの場合は有料修理になります。

- ・使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - ・お買上げ後の落下、移動、輸送等による故障及び損傷。
 - ・火災、地震、水害、落雷、塩害、弊社指定以外の燃料使用によるもの、その他、天災地変、公害による故障及び損傷。
 - ・保証書の提示がない場合。
 - ・本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 4.本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
5.本保証書は再発行しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

製造発売元

新富士バーナー株式会社

〒441-0314

愛知県豊川市御津町御幸浜1号地1-3

TEL0533-75-5000(代) FAX0533-75-5033

http://www.shinfuji.co.jp/

E-mail:info@shinfuji.co.jp

日本製

2014.2

SOTO
Sparked by nature

MUKA
STOVE
SOD-371 特許出願中

MUKAストーブ 取扱説明書

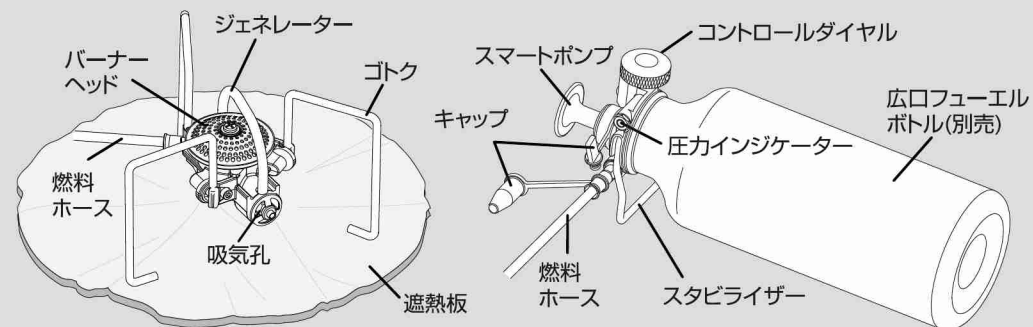
〈生産物賠償責任保険付・保証書付〉

目次

特に注意していただきたいこと	1~2
使用方法	3~7
メンテナンス	8
組立図、付属品、別売品	9
使用燃料、故障・異常の見分け方と処理方法	10
アフターサービス	11

このたびは SOTO MUKAストーブSOD-371をお買上げいただき誠にありがとうございました。本製品を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき大切に保管してください。

■各部の名称



■仕様

外形寸法/幅135×奥行135×高さ80mm (使用時・本体のみ)

幅80×奥行65×80mm (収納時・本体のみ)

重量/327g (本体+ホース:163g、ポンプ:164g)

発熱量※1/4.7kW(4,000kcal/h)

使用燃料/自動車用レギュラーガソリン、ホワイトガソリン

使用時間※2/4,000kcal/hで約1時間(自動車用レギュラーガソリン480ml使用)

2,500kcal/hで約1.5時間(自動車用レギュラーガソリン480ml使用)

※1 気温25℃無風状態で点火後から5分間の燃焼データより算出 ※2 気温25℃無風状態で点火後30分間の燃焼データより算出。

※仕様は予告なく変更する場合があります。

屋外専用

SOTO
Sparked by nature

◆特に注意していただきたいこと

イラストの横にある ⊘ マークは禁止を表します。

⚠ 警告 (取扱いを誤った場合、使用者が死亡、又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。)

- 屋外専用です。一酸化炭素中毒死や酸欠による窒息死のおそれがありますので、テントの中や車の中では絶対に使用しないでください。屋外でも換気の不十分な場所では絶対に使用しないでください。



- こんろと一緒にフューエルボトルを岩やブロック、板などで周囲を囲んで使用しないでください。また、たき火など、他の熱源の近くでは絶対に使用しないでください。燃料が加熱されると爆発する可能性があります。



- 燃料はホワイトガソリン、または自動車用レギュラーガソリンを使用してください。ハイオクガソリンは使用しないでください。ハイオクガソリンはオクタン価を向上させるための添加物が入っているため、ノズル詰まり等の原因になります。

- 火気のあるところや、喫煙しながらの給油作業は非常に危険です。引火してやけどをする危険があります。

- 点火する前に必ず燃料が漏れていないか確認してください。もし燃料漏れがあった場合は絶対に点火しないでください。また、使用中に燃料漏れがないことを確認してください。火災の原因になります。ご使用時には燃焼状態および燃料漏れを常に確認する習慣をつけてください。

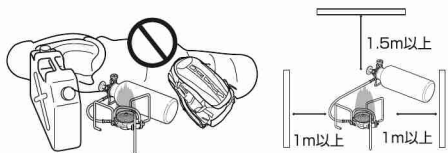


- MUKAストーブは非常に火力が強く低重心のため設置面に熱がかかります。熱により変形、変色する可能性がある場所に設置して使用しないでください。

- 鉄板、焼き網、セラミック製品、スモーカー、ダッチオーブン等の輻射熱の大きい調理器具は使用しないでください。本体が破損するおそれがあります。

- 調理器具の空だきは絶対にしないでください。本体内に熱がこもり破損するおそれがあります。

- こんろの上や周囲に燃えやすいものを置かないでください。火元から側面は1m以上、上部は1.5m以上離してください。



- こんろを2台以上並べて使用しないでください。燃料ホースやこんろ、フューエルボトルが加熱され非常に危険です。



- 点火時にはこんろの真上に顔や体などを絶対に近づけないでください。着火と同時に大きな炎が立ち上がるため、やけどの危険があります。

- 火をつけたまま本製品から離れないでください。

- 燃焼中にこんろを持ち運んだり、動かしたりしないでください。大きな炎が立ち上がり危険です。

- こんろが完全に冷えるまで、絶対に触らないでください。使用直後は非常に高温になっており、やけどの危険があります。



◆特に注意していただきたいこと

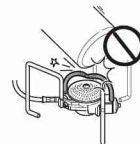
イラストの横にある ⊘ マークは禁止を表します。

⚠ 警告 (取扱いを誤った場合、使用者が死亡、又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。)

- 子供に使用させないでください。また、こんろ周辺では子供やペットから目を離さないでください。



- ジェネレーターは、予熱不要にするために非常に精密な設計が施された部品です。物を突き当てたり落としたりして変形した場合は交換が必要になりますので、丁寧に扱ってください。



- 燃料ホースの先端、及び燃料ホース接続部には砂などが付かないよう注意してください。砂などが付いたまま使用すると燃料漏れや、つまりの原因となりますので注意してください。

- 燃料ホースが90度以上、曲がるような扱いはしないでください。燃料漏れの原因となります。



- 燃料ボトルは必ずSOTO専用の広口フューエルボトルをご使用ください。また、SOTO広口フューエルボトルに記載されている「使用上の注意」をよく読んで使用してください。



- 湯わかし、調理以外には使用しないでください。

- 使用できる鍋は、直径21cmまで、内容量を含めた重量は4.5kgまでが目安です。



- 燃料を保管する際は、キャップをしっかりと締めて涼しい所に保管してください。直射日光の下や車の中等高温になる所に燃料を放置しないでください。フューエルボトルが爆発するおそれがあります。



- フューエルボトルを収納する時は、専用のボトルキャップを取り付けて、フューエルボトルの口部分を保護してください。持ち運ぶ際は、フューエルボトルからスマートポンプを外す必要はありません。その際コントロールダイヤルを必ずロックしてください。

- フューエルボトルを開けた際、スマートポンプのOリング、またボトルキャップのOリングが内圧により、ボトルの口からはみ出すことがあります。その際は、Oリングを正しい位置に戻して作業を継続してください。

- 保管する際や、長期間(1週間以上)使用しない場合は、フューエルボトルからポンプを取り出して、ボトルキャップをしっかりと締めて保管してください。その際、ボトル内の圧力は必ず抜いてください。

- 気温がマイナス20℃以下の場合、Oリングが硬くなり、一時的に弾性を失い、燃料漏れの原因となる可能性があります。気温がマイナス20℃以下になる場所では使用しないでください。

- 雪の上でこんろを使用する場合、こんろの下の雪が解けてこんろが傾き、調理中の鍋等が落下することがありますので注意してください。

◆使用燃料

自動車用レギュラーガソリン、またはホワイトガソリン

- 上記以外の燃料は使用しないでください。
- ハイオクガソリンは使用しないでください。オクタン価を向上させるための添加物などが入っているためノズル詰まり等の原因になります。
- 異なる種類の燃料を混ぜて使用しないでください。エンジンオイルなどはカーボン発生の原因となり、ノズル詰まりにつながりますので混入しないよう、十分にご注意ください。
- 古い燃料は使用しないでください。ノズルが詰まる原因になります。
- 揮発性の高い燃料です。取扱いには十分に注意してください。

注意 自動車用ハイオクガソリンは使用できません。

◆故障・異常の見分け方と処置方法

症状	原因	加圧できない	ポンピングしても	燃料が逆流する	シリンダーパイプの中に	接合部から燃料が漏れる	スマートポンプとボトルの	燃料が出ない	点火しない、こくこい	燃料が出ない	安定しない(吸気孔から燃料が漏れる)	安定しない(吸気孔から燃料が漏れる)	「Start」で大きな炎が立ち上がり	「Run」に切り替わっても炎が	安定しない(書い炎にならない)	火力が弱い	使用中に火が消える	処置方法
燃料がなくなっている(少なくなっている)																	○	給油する
燃料の入れ過ぎ(フューエルボトルが傾いている)										○								燃料を規定の量に給油しなおし、フューエルボトルが水平な状態であることを確認する
スマートポンプとフューエルボトルの接合部に使用しているOリングにキズや異物が付着している						○												スマートポンプとフューエルボトルの接合部に使用しているOリングを交換する
外気温が低い(氷点下)									○									低温時には燃料に点火しにくくなるため、再度点火操作を行う
点火時に「Start」での位置の時間が短すぎる															○			点火時に「Start」での位置の時間を長めに(20秒前後)してから「Run」に切り替える
ジェネレーターユニットの変形、目詰まりがある													○	○	○			新しいジェネレーターユニットと交換する
「Start」の位置で点火後、「Run」に切り替わっていない																	○	点火時に「Start」の位置で約10秒たってから「Run」に切り替える
燃料ホースとスマートポンプの接続が不完全										○							○	燃料ホースとスマートポンプを正しく接続する
コントロールダイヤルの「Rock」を解除していない										○								コントロールダイヤルの「Rock」を解除する
ピストンパッキンに異物が付着している または乾燥している		○																ピストンパッキンに付着した異物を取り除く 付属のシリコングリスを塗る
逆止弁のOリングに異物の付着またはキズがある			○															逆止弁のOリングを交換する または逆止弁ユニットを交換する

警告 上記の箇所以外から燃料漏れがある場合には使用しないでください。当社「お客様係」まで点検・修理を依頼してください。

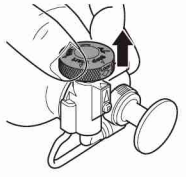
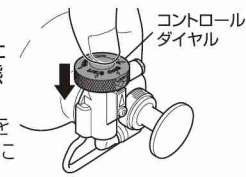
◆使用方法(コントロールダイヤル、ゴトク、給油)

■コントロールダイヤルの使用方法

◆“ロック”の位置:

コントロールダイヤルを押し込むとロックされた状態になります。使用しないときはロックの状態にしてください。

※ロックされた状態でもコントロールダイヤルを回すことはできますが、作動はしません。これにより誤操作を防止します。



◆緊急停止(燃料とAIR、両方の供給を停止):

燃焼中でも、コントロールダイヤルを押し込みロックの状態にすることで緊急停止させることができます。(コントロールダイヤルがどの位置であっても停止します。)

※ホースなどの燃料通路には若干の燃料が残っているため、これが燃え尽き消火するまでには多少の時間を要します。

◆“ロック解除”の位置:
使用するときにはコントロールダイヤルを引き上げてロックを解除します。

「Stop」・「Start」・「Run」・「Air」の4つの操作をすることができます。



通常、消火する際は「Air」に切り替えて消火をしてください。「Air」に切り替えることで燃料ボトル内の圧力を抜きながら、燃料通路をクリーニングします。これによりジェネレーターユニットの交換時期を遅らせることができます。

■ゴトクのセッティング、給油

①3本のゴトクを図のように回転させセットします。

②“MAX FILL LEVEL”の線を越えないように給油します。

※“MAX FILL LEVEL”の線を越えないように給油してください。“MAX FILL LEVEL”より上は、圧力を入れるための空気室として確保しておく必要があります。空気室の確保が不十分な場合、スタートに失敗する可能性があります。
※火気のあるところでは給油作業をしないでください。

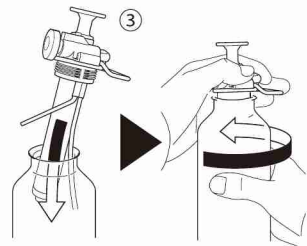
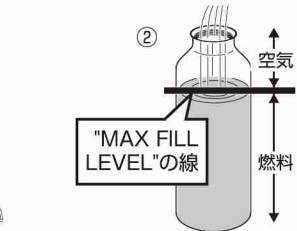
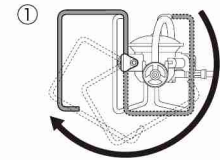
③スマートポンプをセットします。まだ燃料ホースは接続しないようにしてください。

※使用前には、必ずフューエルボトルの口やポンプのOリングにゴミが付着していないか、キズがついていないか、また、フューエルボトルの口が歪んでいないかを確認してください。ゴミが付着している場合は取り除き、キズ、歪みがある場合は使用せずに、新しいものに取り替えてください。

※スマートポンプの空気吸入ホース、及び燃料吸入ホースを傷つけないよう注意してください。

※空気吸入ホースと燃料吸入ホースが正しい向き(右図参照)になっているか確認してください。

※スマートポンプ取り付けの際、逆止弁ノズル(組立図25)が緩んでいないか、確認してください。緩んでいる場合は、マルチツールを使って締めてください。



◆使用方法(ポンピング)

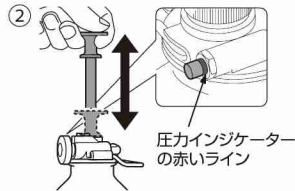
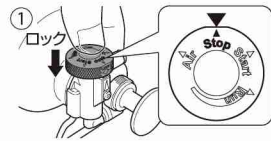
■ポンピング

- ①コントロールダイヤルがロックされていることを確認し、「Stop」の位置(カチッと音のするところ)に合わせます。
- ②フルストロークでポンピングします。燃料を「MAX FILL LEVEL」まで給油した場合、圧力インジケーターの赤いラインが見えるまでポンピングします。

給油量が少ない場合に限り、赤いラインが見えるまでポンピングしなくても、安全にスタートさせることができます。この場合は、下記の表を目安にポンピングしてください。これによりスタート時のポンピング回数を減らすことができ、また赤い大きな炎(生火)の発生も抑えることができます。



赤いラインが見えた後ポンピングを続けても、圧力インジケーターがさらに出てくることはありません。ポンピングを続けると、フューエルボトル内の圧力が上がり過ぎ、スタート時に赤い大きな炎(生火)が立ち上がることがあり危険です。



	給油量(ml)	ポンピング回数(回)	インジケーターの赤いライン	点火時に上がる炎の大きさ
SOTO 広口フューエルボトル 700ml	480(満タン時)	70	見える	大きめ
	240	80	見えない	やや大きめ
	120	80	見えない	小さめ
	60	80	見えない	小さめ
SOTO 広口フューエルボトル 1000ml	700(満タン時)	90	見える	大きめ
	350	100	見えない	やや大きめ
	175	150	見えない	小さめ
	90	150	見えない	小さめ
	45	150	見えない	小さめ

⚠警告

圧力インジケーターは、過剰な加圧を防止するための目安とするものです。フューエルボトルの内圧を測定するような機能は備わっていません。そのため圧力インジケーターは、内圧に応じて稼働する圧力計と同じような稼働はしません。

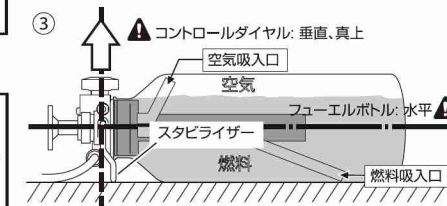
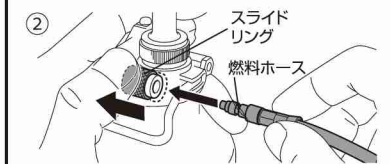
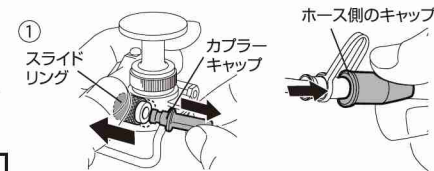
⚠注意

低温下で使用した場合、ピストンパッキン(組立図16)が硬化しフューエルボトルに圧力が入らない状態になることがあります。その際はシリンダーキャップを外してピストンを取り出し、ピストンパッキンを体温などで温めることで再度圧力を入れることが可能になります。

◆使用方法(ホースの接続、吸気パイプ・風防の取り付け)

■ポンプとホースの接続

- ①スライドリングをスライドさせながら、カプラーキャップを外します。ホース側のキャップも外してください。
- ②スライドリングをスライドさせながら、ポンプと燃料ホースを接続します。ポンプとホースがしっかり接続されているか確認してください。



⚠警告

キャップやポンプおよびホースの接続部に砂などが入り込まないように注意してください。砂などが付いた状態で接続すると燃料漏れや、つまりの原因になります。ポンプとホースの接続部に雪等の水分が付いて凍ると燃料通路がふさがれ、燃料が出なくなります。氷点下では雪等の水分が付かないよう、ご注意ください。もし燃料通路が凍結した場合、体温で温める等して氷を解かし、燃料通路を確保してください。

- ③スタビライザーを下にして、フューエルボトルを水平な所に横にします。

⚠警告

フューエルボトルは必ず水平に横にしてください。その時必ずスタビライザーが真下、コントロールダイヤルが常に垂直で真上を向いているようにしてください。

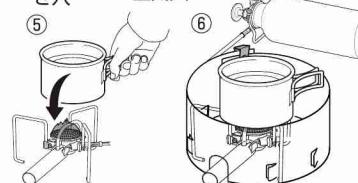
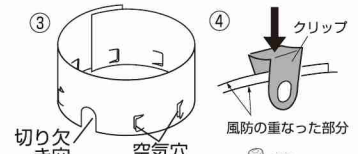
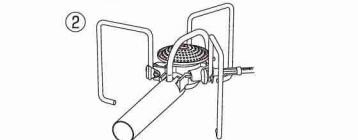
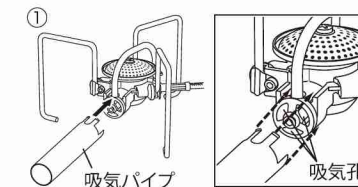
■吸気パイプ・風防の取り付け

※吸気パイプや風防の端で、指や手などを切らないようご注意ください。

⚠注意

風防を使用する際には、必ず吸気パイプを取り付けてください。吸気パイプを取り付けずに使用すると風防の内部が酸欠状態となり、異常燃焼をおこすおそれがあります。吸気パイプを取り付けることにより吸気パイプの先端から酸素を取り入れ安定した炎で燃焼させることができます。

- ①吸気パイプを右図①のように3つの吸気孔にかぶせるように差し込んで取り付けます。
- ②吸気パイプがしっかり取り付けられていることを確認します。
- ③風防を右図③のように円筒状にします。
※風防を設置する際は、鍋等と風防の間は必ず2.5cm以上すき間を確保してください。すき間が狭すぎると場合によってはバーナー本体やホースなどが破損するおそれがあります。
- ④風防の端の重なった部分を付属のクリップで止めます。
- ⑤鍋をこんろののせます。
- ⑥風防を右図⑥のように切り欠き穴から吸気パイプの先端を出すようにして設置します。
※使用後風防を収納する際は丸めて収納してください。折りたたんで収納すると次に使う際、空気穴がうまく開かなくなります。



⚠警告

風防を設置した後は、風防に触れないでください。非常に高温になるため、やけどの危険があります。また、フューエルボトルを風防で囲わないでください。フューエルボトルが加熱されて爆発する可能性があります。非常に危険です。

◆使用方法(点火、風防)

■点火

警告 MUKAストーブは非常に火力が強く、低重心のため設置面に熱がかかります。特に熱により変形、変色する可能性のある場所では使用しないでください。

- ①コントロールダイヤルが「Stop」の位置にあることを確認してから、ロックを解除します。
- ②すぐに点火できるように、ライター等を手元に用意します。
- ③ライター等を着火させ、コントロールダイヤルを「Start」の位置に切り替え、点火します。点火と同時に勢いよく赤っぽい炎が上がります。

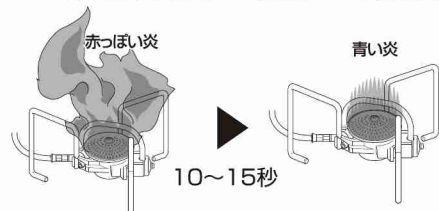


警告

点火時には絶対に顔や体などをこまめに近づけないでください。「Start」に切り替えた後、点火しないまましていると燃料がバーナーユニット内にたまり、スタートに失敗します。また、たまった燃料に点火した場合、赤く大きな炎(生火)が立ち上がり危険です。

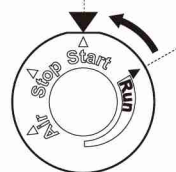
■炎の安定

- ①「Start」の位置で10～15秒燃焼させ、赤っぽい炎が青く変化したのを確認後、コントロールダイヤルを「Run」に切り替えます。(気温25℃、無風状態時)



注意 「Run」への切り替えが早いと、バーナーユニットとバーナーユニットリングのすき間から炎が出る場合がありますが20秒ほどで消火します。

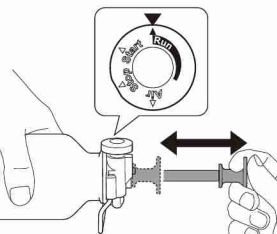
目安として約10～15秒で青い炎に変わります。温度が低い時や風のある時は、もう少し時間がかかります。



警告

- 「Run」への切り替えが早すぎた場合、赤い大きな炎(生火)が出続けます。その際は「Start」位置へ戻し、ジェネレーターが温まるのを待ってから、再度「Run」へ切り替えてください。
- 忘れずに「Run」へ切り替えてください。「Start」の位置では燃料と空気が同時に噴出します。そのため、「Run」への切り替えを忘れてしまうとフューエルボトルの内圧がどんどん下がり、火力が上がらず調理ができません。

- ②連続燃焼を維持するために、再度ポンピングして適当な圧力をかけます。圧カインジケータの赤いラインが見えたらポンピングを終了します。点火と同時に、最初に入れた圧力のほぼすべてを使い切ります。「Run」に切り替えたら、必ず適当な圧力までポンピングしてください。



警告

圧カインジケータの赤いラインが見えたらポンピングを終了してください。これ以上にポンピングを続けると、赤い大きな炎(生火)が立ち上がる可能性があり、やけどや火災の危険があります。

◆使用方法(火力調整、消火)

■火力調整

「Run」の火力調整範囲内で無段階の火力調整ができます。

- コントロールダイヤルを回してから、実際に炎が変化するまで、若干の時間のずれがあります。特に弱火の状態では、徐々にフューエルボトル内の圧力が低下し、炎が消えてしまうことがありますので注意してください。
- 外気温やフューエルボトル内の圧力などにより、とろ火の位置は微妙に異なります。
- 燃焼中、ジェネレーターユニットに多量の水がかかると火が消える可能性があります。
- 風向きによっては吸気孔に炎が巻き込まれ、赤い炎が立ち上がることがあります。その際は付属の風防を使用してください。

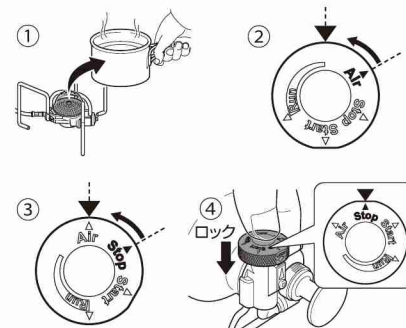


■消火

- ①調理器具をこまめに下ろします。
- ②コントロールダイヤルを「Air」に切り替えます。この位置では、燃料が遮断され、空気が燃料通路を通過します。「Air」に切り替えた瞬間、一瞬炎が大きくなり、その後フューエルボトル内の圧力を抜きながら徐々に消火していきます。
- ③消火を確認後、コントロールダイヤルを「Stop」に切り替えます。

警告

必ず「Stop」に切り替えてください。「Stop」に切り替えずにフューエルボトルを持ち運ぶと、燃料が漏れ出す可能性があります。



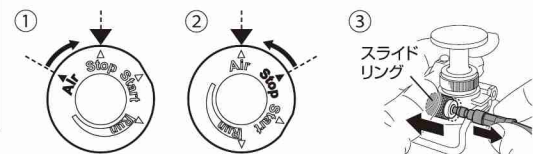
- ④誤操作防止のためコントロールダイヤルを押し込みロックします。

■燃料ホースとスマートポンプを取り外す

- ①コントロールダイヤルを「Air」に切り替え、フューエルボトル内の圧力を抜きます。

警告

圧力がフューエルボトル内に残っていると、ポンプの取り外しが非常に困難になります。また、燃料が吹き出す危険がありますので、必ず圧力を抜ききってください。

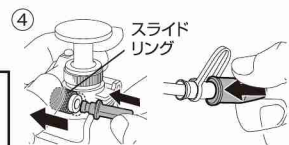


- ②コントロールダイヤルを「Stop」に切り替えます。

- ③スライドリングをスライドさせて、カプラーを外します。

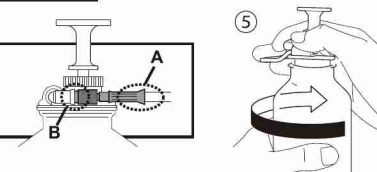
- ④スライドリングをスライドさせてカプラーキャップを取り付け、燃料ホース側にもキャップを取り付けます。

燃料ホースとスマートポンプが接続されていないときは、必ずキャップをしてください。接続部に傷がついた場合、燃料漏れの原因になります。また接続部にゴミ、砂等がついたまま使用すると燃料漏れや、つまりの原因になりますので注意してください。



- ⑤周囲に火気がないことを確認し、スマートポンプを外します。

スマートポンプを取り外す前に、必ず燃料ホースを外してください。ホースを付けたままポンプを外そうとすると、右図のAの部分に応力がかかり、「てこの原理」が働き、右図のBの部分割れて使用できなくなります。



- ⑥こまめに完全に冷めたことを確認して収納します。

MUKAストーブの燃料ホースは、使用時の操作を安易にするためや、梱包時の収納スペースを確保するため、柔軟性を持たせてありますが、燃料ホースが90度以上曲がるような扱いはしないでください。燃料漏れの原因となります。

◆メンテナンス

- ここに記載されていない分解や改造は絶対にしないでください。
- 必ずSOTO純正部品を使用してください。
- 付属のメンテナンスキットをこころと一緒に携帯してください。

◆ジェネレーターユニット(別売品)の交換方法



注意

MUKAストーブは長時間使用を続けることで火力が徐々に落ちていきます。のべ使用燃料が約20ℓ(700ml燃料ボトルで約40本分)を越えたところから火力の低下がはじまります。火力が弱いと感じたら、ジェネレーターユニット(品番:SOD-453)の交換をおすすめします。ジェネレーター内のスプリングやノズルを掃除しても、製品性能の改善にはつながりません。

- ①付属のマルチツールの[A]を使って、「ジェネレータージョイント(組立図⑫)」を外します。
- ②マルチツールの[B]を使って、「ジェネレーター固定ネジ +/-M4 x 6(組立図⑦)」を外します。
- ③右図を参考に矢印の方向へ向かって「ジェネレーターユニット」を取り外します。
- ④新しいジェネレーターユニットを取り付け、再度、「ジェネレーター固定ネジ +/-M4 x 6(組立図⑦)」を締めて固定します。
しっかりネジを締めた状態でも、ジェネレーターユニットは多少ぐらつきます。これはジェネレーターユニットが熱により膨張したり、冷却されて収縮するための遊びを設けているためです。ネジがしっかり固定していれば問題ありません。

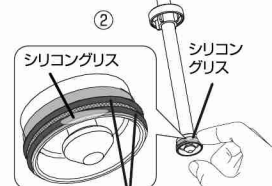


注意

ジェネレーターユニットはやわらかい材質でできています。交換する際、無理に力を加えたりして変形させないでください。ジェネレーターユニットはジェネレーターにノズルが組み付けられた部品です。ノズルとジェネレーターとの角度は正確性を要するため、ユニットからノズルを取り外すことはしないでください。

◆ピストンパッキンのメンテナンス

- ①シリンダーキャップを回してピストンを外します。
- ②ピストンパッキンの2つの凸部の間に付属のシリコングリスを少量塗ります。
- ③ピストンを元の位置に戻してシリンダーキャップを締めます。

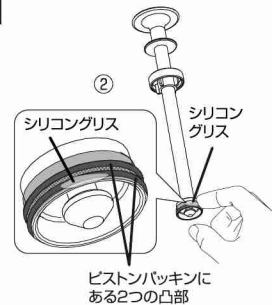
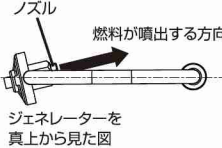
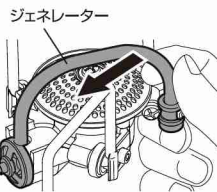
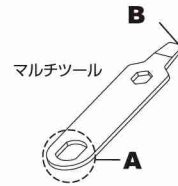


◆バーナーヘッドのクリーニング

- ①付属のマルチツールの[B]を使って「バインド +/-M4 x 20(組立図②)」を外します。
- ②柔らかいブラシのような物で付着したゴミを取り除きます。取れない場合はぬるま湯に浸けてからこすり落とします。ただし、押しつけるようにすると変形の原因になりますので注意してください。
- ③再度バーナーヘッドを戻します。ネジを締め込みすぎないように注意してください。バーナーヘッドの変形につながります。

◆ゴトクのメンテナンス

ゴトクの動きが悪くなった場合は、「ゴトク」と「板バネ(組立図⑥)」の隙間に少量の潤滑油をさしてください。

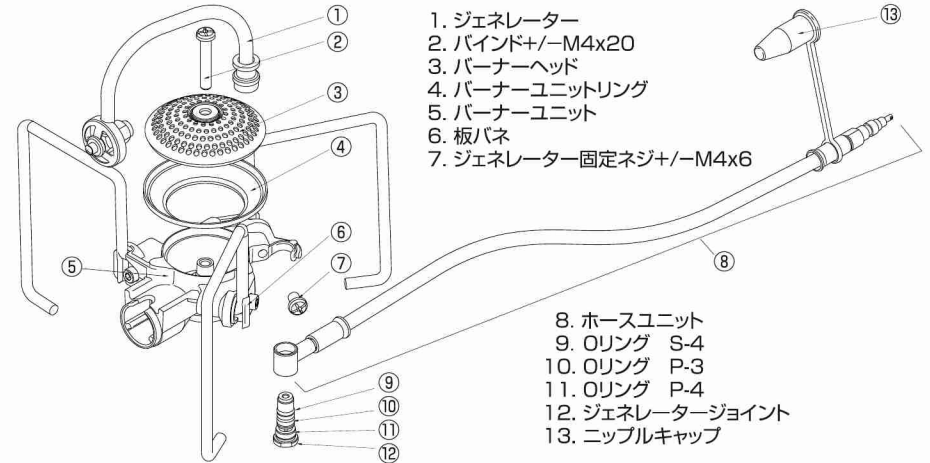


◆組立図 / 付属品 / 別売品

■組立図

MUKAストーブ

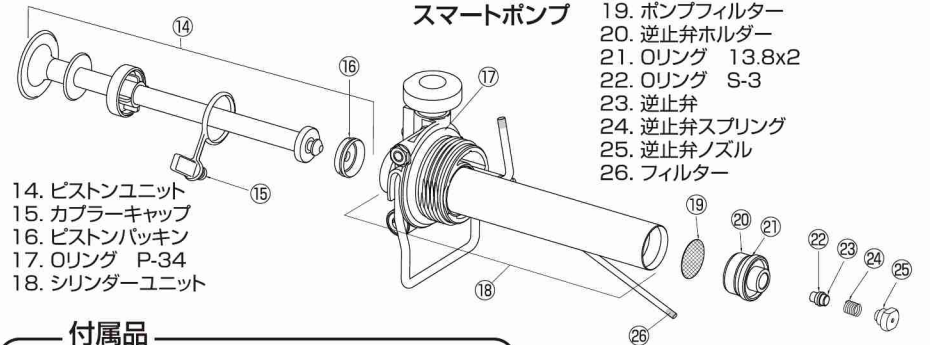
1. ジェネレーター
2. バインド +/-M4x20
3. バーナーヘッド
4. バーナーユニットリング
5. バーナーユニット
6. 板バネ
7. ジェネレーター固定ネジ +/-M4x6



8. ホースユニット
9. Oリング S-4
10. Oリング P-3
11. Oリング P-4
12. ジェネレータージョイント
13. ニップルキャップ

スマートポンプ

19. ポンプフィルター
20. 逆止弁ホルダー
21. Oリング 13.8x2
22. Oリング S-3
23. 逆止弁
24. 逆止弁スプリング
25. 逆止弁ノズル
26. フィルター



14. ピストンユニット
15. カプラーキャップ
16. ピストンパッキン
17. Oリング P-34
18. シリンダーユニット

■付属品



■別売品

